

お茶の水血液検討会で行っている研究で治療された患者さんおよびご家族の方へ

研究課題「未治療多発性骨髄腫に対する初回治療後の自家末梢血幹細胞移植に関する後方視的観察研究」(審査番号 397)

1. 研究の対象

未治療多発性骨髄腫に対し、お茶の水血液検討会での VAD 療法、Bd 療法、CBd 療法、VRd 療法による初回治療の介入研究に参加した患者さん

2. 研究目的・方法・研究期間

多発性骨髄腫治療において 2006 年に本邦でボルテゾミブが使用可能になって以降、様々な新規薬剤が使用可能となり予後は改善しています。65 歳未満の未治療の患者さんでは初回治療に新規薬剤を用いた後に大量化学療法を併用した自家移植が標準治療とされますが、現在では自家移植後に地固め療法や維持療法を行うことも多くなっています。自家移植が行われた患者さんの生存期間中央値は 10 年を超えるとも報告されています。一方で初回治療の変遷により予後が改善しているかどうかについては本邦においては十分に検討されていません。

お茶の水血液検討会では自家移植前の初回治療として VAD 療法、Bd 療法、CBd 療法、VRd 療法を臨床研究として行ってきました。これらの臨床研究に参加した患者さんをまとめて解析することで、未治療多発性骨髄腫に対する初回治療後に自家移植を施行した際の予後とそれに関与する因子について明らかとすることを目的としてこの研究を行うこととしました。

調査項目は以下の通りです。

- ① 患者背景 (年齢、性別、M 蛋白 type、診断日、臨床病期 (Durie&Salmon、国際病期分類 (International Staging System : ISS)、改訂国際病期分類 (Revised International Staging System : R-ISS)、血清 alb 値、血清 LDH 値、血清 β_2 ミクログロブリン値、髄外腫瘍の有無)
- ② 診断時骨髄所見 (形質細胞比率、染色体分析、蛍光 in situ ハイブリダイゼーション (fluorescence in situ hybridization: FISH))
- ③ 初回治療所見 (治療内容、治療開始日、治療後奏効)
- ④ 採取所見 (採取レジメ、採取 CD34 陽性細胞数)
- ⑤ 移植所見 (移植前奏効、前処置メルファラン投与量、移植日、輸注細胞数、生着日、移植後奏効)

- ⑥ 移植後追加治療所見（追加治療開始日、追加治療内容、追加治療後奏効）
- ⑦ 予後所見（再発有無、無増悪生存期間（progression-free survival：PFS）、全生存期間（overall survival：OS）、無イベント生存期間（event-free survival：EFS）、次治療開始までの期間（Time to next treatment：TTNT）
- ⑧ 再発後所見（再発後治療内容、治療後奏効）
- ⑨ 有害事象（Grade3以上の有害事象・発生割合）
- ⑩ 初回治療中止理由
- ⑪ 2次発がん有無

方法は診療目的で集めた今までのデータを活用します。あなたが参加されたお茶の水血液検討会施設において上記の情報を匿名化した状態で集めて分析を行います。この研究のためだけに新たに検査等を追加したりすることはありません。

研究期間：2023年8月8日～2024年9月30日

この研究は、独立行政法人国立病院機構水戸医療センター倫理審査委員会の承認を受け、院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療情報：病歴、治療歴、検査データ、薬剤情報

（生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人を特定するような情報は研究に用い
ません。）

収集した情報は、解析する前に氏名・患者IDなどの個人情報を削り、新たな符号（番
号）をつけ、どなたのものかわからないようにします（このことを匿名化といいます）。
登録患者さんの同定や照会が必要となった場合には、登録時に発行される症例登録番
号を用い、実施医療機関を通じて行います。

4. 外部への試料・情報の提供

本研究においては東京北医療センターがデータセンターとなって各施設から情報を
集めます。集められた情報は解析に適した形にまとめられ、5.の共同機関に提供され、
そこで解析されることがあります。このとき匿名化されたデータの提供は、特定の関
係者以外がアクセスできない状態で行います。

5. 研究組織

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

主任研究機関：東京北医療センター

研究責任者：血液内科医長 工藤 大輔